opusdei.org

## 聖ホセマリアの生涯 - 11

1930年6月、ホセマリア・エスクリバーは神から託された事業を「オプス・デイ」と命名します。

2023/06/13

## 過去の記事はこちらから

1928年10月2日、聖ホセマリアは神からオプス・デイを見せてもらうという超自然的な経験をしました。しかし、その後そのような神の特別の介入はぴったりとなくなってしまっ

たのです。そこで自分でオプス・ディをどうするかと考えねばなりませんでした。

神父は以前から霊的なメモを残して いました。1929年の暮れに「オプ ス・デイには女性はいない」と書い ています。ところが翌年の2月14日 の朝、神父がミサをたてていたと き、突然「オプス・デイには女性も いる」という神からの霊感を感じた のです。すぐに聴罪司祭(告解を聞 いてもらっている司祭)に報告に行 くと、「これも前のものと同じく神 のものです」と言われました。この 事件も、神父が自分の個人的な望み に従って働いていたのではないこと を教えています。

聖ホセマリアは、神様から示された 事業に名前をつけようとはしていま せんでした。ただ時に応じて、「仕 事」とか「事業」とか「使命」とか 呼んでいました。しかし1930年の6

月、聴罪司祭から「あの神の仕事は どうなっていますか | と尋ねられ て、はっとしました。この名前、つ まり「神の仕事」とは自分に託され た事業を表現するのにぴったりでは ないか、と。なぜなら、その仕事は 人間が考えついたことではなく神に よって示されたものであるし、その メッセージの核心は世俗社会の中で 信者が各自の仕事をよく果たすこと で聖人になるということだから。そ うして自分が一生を開けた什事を 「神の仕事」(ラテン語訳でオプ ス・デイ)と呼ぶようになったので す。

しかし、大きな使命を与えられたに しても、聖ホセマリアの生活は相変 わらずとても苦しいものでした。病 人援護会での司祭としての仕事と病 人や貧しい人々の訪問や世話の他 に、家族を養うために法律の予備校 で教え、また家庭教師の仕事も探し ました。それでも家族に楽な生活を させることはできませんでした。またこれらの仕事で時間と精力を絞りとられて、法律の博士論文を仕上げる時間が削られていきました。

もう一つの困難が当時のスペインの 政治状況でした。カトリックの国で ありながら、教会を迫害する勢力が 目に見えて強くなっていたのです。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-11/(2025/11/20)